

ほ場による生育の差が大きい！生育にあった管理を励行！

平成 15 年 6 月 11 日
やまがたこだわり安心米推進運動本部

1 生育概況

生育は概ね順調に推移している。6月10日現在の農業普及課や農業試験場の調査結果によると、平坦部の「はえぬき」は、草丈が平年並みからやや短く、茎数が平年並み、葉色は平年並みからやや淡く、葉数は平年並みである。ただし、ほ場による生育の差が大きく、庄内地域では茎数が平年より多い傾向である。土壌中の残存アンモニウム態窒素は平年より少ない。中山間・山間部では、草丈が平年並みで、茎数が平年よりやや少なく、葉色がやや淡く、葉数が平年より0.2枚多い。直播は、指標並み程度の苗立ち本数は確保されており、草丈は平年並みからやや長く、茎数は平年よりやや多く、葉数は平年より0.2枚多く、葉色は平年並みからやや淡い。

2 当面の技術対策

6月6日発表の1か月予報では、向こう1か月は気温は平年並みが高く、降水量は平年並み、日照時間は平年並みと予想されている。また、現在はほ場による生育差が大きく、葉色が平年並みからやや淡く、土壌中の残存アンモニア態窒素は平年より少ない。そのため、今後は生育量に見合った適切な管理を行う必要がある。

以上のことから、品質と食味の良い米を生産するために、適正な㎡当たりもみ数の確保をめざして、以下の点に留意して当面の技術指導に当たる。

（１）水管理による茎数の確保

茎数が少ないほ場では、目標とする茎数を確保するため2～3cmの浅水管理を徹底する。また、土壌の還元化が進行しているほ場では、水交換や一時的な落水管理を行う。

（２）作溝・中干しの徹底

目標茎数を確保しているほ場では、有効分けつ決定期である8葉期（6月20日～25日頃）になったら、すみやかに落水して作溝・中干しの準備を行う。中干しは、小ひびが入る程度を目安とする。また、果樹地帯では「さくらんぼ」の収穫時期と作業が重なることから、作溝・中干しが遅れないよう計画的に作業を進める。

（３）カメムシ対策等の徹底

防除所のすくい取り調査によると、カメムシ類の畦畔・農道での発生地点率が過去3年平均より高く、今後の多発生が懸念される。畦畔及び農道等の草刈りを地域ぐるみで徹底し、カメムシ類の生息密度低下に努める。

葉いもちは、風の淀むところや生育量の多いところを中心に巡回を行い、早期発見早期防除を徹底する。葉いもち防除のため箱施用剤を使用した水田でも、油断せずにはほ場の観察を行う。葉いもちの防除を水面施用剤（粒剤等）で行う場合は、早めの散布を心掛け、6月20日頃までに散布を終了する。また、散布後は4～5日間湛水したのちすみやかに作溝・中干し作業に入るよう計画する。

（４）直播栽培

目標茎数は確保していることから、有効分けつ決定期である8～9葉期（6月25日頃）になったら速やかに落水して作溝・中干しの準備を行う。葉いもちの粒剤による防除は、移植と同様6月20日頃までに散布を終了する。